

崇城大学 広報誌「岳風」2026

GAKUFŪ

SOJO UNIVERSITY
Public Relations Magazine

TAKE FREE

2026 SUMMER vol.100

SOJO



熊本県PRキャラクター
「くまモン」
©2010kumamoto
pref.kumamon
#K38745

ありがとう!
100号



ありがとう!
100号

『岳風』は1996年創刊以来、
皆様のご支援により100号を迎えました。
心より感謝を込めて記念号をお届けします。

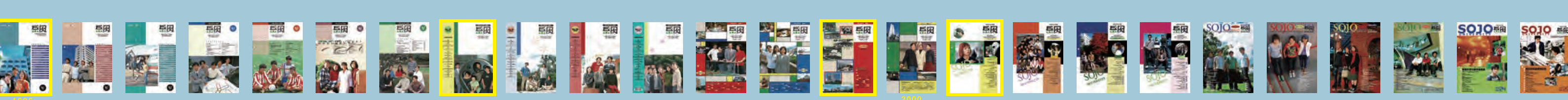
初代学長中山義崇が「岳風」に込めた思い

新しい広報誌の名前の名称「岳風」も、金峰山（一の岳）、二の岳、三の岳の自然に囲まれた学園にふさわしいものであり、発展する学園の青史として大きく成長してもらいたいものである。
広報活動として、学園を内外に報ずることは勿論であるが、新しい大学像を啓発することにも期待したい。
（創刊号に寄せた一節）



（岳風の公式ロゴ）





記念すべき
1号!



#01

1996年発行

あの頃のキャンパスを

映す創刊号

学生インタビューや学内の自然紹介、海の家開きなど、今では見られない風景や活動が詰まった初めの一冊。当時の遠歩会は53kmだったとか!



#36

2005年発行

5学部体制が整い

真の総合大学へ

薬学部が新設され、現在と同じ5学部体制を開始。ロボット研究会や軟式野球部の活躍など、学生の挑戦と学びの広がりを伝える企画が充実している。



新体制
スタート!

ナノサイエンス学科 3年生
西村さん
(熊本県/湧心館
高校出身)



#08

1998年発行

女子新入生が

初の3桁となった号

表紙には助教時代の小野学長が登場。初めて学部生で「第一級陸上無線技術士」に合格。女子新入生が初めて3桁に達したニュースが象徴的!

Memory

100号のあゆみ いろいろなこと がありました。



100号分の広報誌『岳風』には、崇城大学の日常が詰まっています。
これまでの歩みをたどりながら、本学

が歩んできた“軌跡”をご紹介します。



図書館も
完成したよ!



#14

1999年発行

学園創立50周年

特大号

学園創立50周年を記念して、江崎玲於奈博士(ノーベル物理学賞受賞者)による講演会など、当時のキャンパスの賑わいがよく伝わる。



#16

2000年発行

熊本工業大学から

崇城大学へ

芸術学部の開設と校名変更を中心に紹介し、翌年の宇宙航空システム工学科設置も予告。教員作品の掲載など、“変わりゆく大学”を多彩な企画で紹介している。

宇宙航空システム工学科
宇宙航空システム専攻
3年生
甲斐さん
(熊本県/
東峰高校出身)



#31

2004年発行

新学長誕生と

伝統行事を収めた号

中山理事長が当時学長に就任した節目の一冊。芸術学部1期生の卒業展を紹介し、田原坂駅伝や寒稽古など今は見られない行事の写真も掲載されている。

生物生命学科 3年生
入山さん
(熊本県/
ルーテル学院
高校出身)



ここまで来たよ!
ついには50号!



#50

2008年発行

創刊号からの

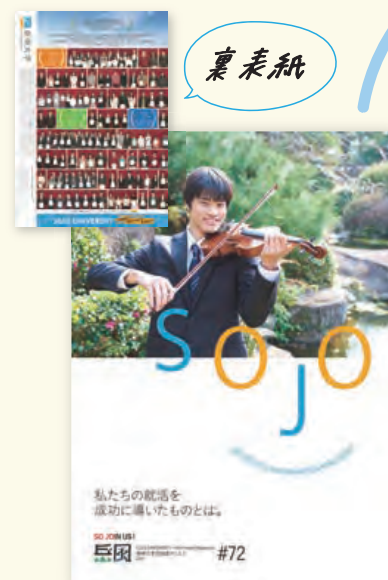
一つの節目を迎えた50号

創刊号の人物を訪ねる企画で「岳風」の原点をたどりつつ、学生フォーミュラ初出場や日展入賞なども紹介。表紙は芸術学部学生の作品で、50号を彩っている。





本学シンボルマークは、創立60周年記念事業として2009年に学内公募で学生の案が採用された。崇城大学の「そ」が跳び立つ姿を表し、SOJOブルーとSOJOオレンジを基調に未来と情熱を象徴している。



裏表紙

#72

2015年発行

新たな挑戦と

表彰制度が並んだ号

第一回崇城大学ビジネスプランコンテストを中心に、学生の実践的な取り組みを紹介。「笑顔と感謝の表彰制度」がはじまり、裏表紙には写真が掲載された。



新企画
スタート!



#52

2009年発行

施設紹介と

新企画が始動した号

学内のさまざまな施設を紹介し、大学の「今」を伝えた一冊。現在も続く「九州出身者紹介」がこの号からスタートし、新たな試みが始まった。



#75

2016年発行

震災と

学生の力を映した号

熊本地震直後の学内の状況を写真とともに掲載。学生のボランティア活動が大きく取り上げられ、復興に向けた力強い歩みが感じられる。



#80

2018年発行

学生が文部科学大臣賞を

受賞した記念すべき号

全国学生英語プレゼンテーションコンテストで最優秀賞(文部科学大臣賞)を受賞した学生を紹介。SILC(シルク)がリニューアルされ、英語教育の充実をさらに感じる内容となった。

誇らしい
受賞だね!



Memory

岳風

100

号のあゆみ

いろいろなことがありました。

100号分の広報誌『岳風』には、崇城大学の日常が詰まっています。これまでの歩みをたどりながら、本学

が歩んできた“軌跡”をご紹介します。



#57

2010年発行

シルク
SILC誕生と学生の

挑戦を映した号

完成した英語学習施設SILC(シルク)を紹介。学生の活躍記事や教員の書籍紹介も掲載され、学びと挑戦が感じられる。

建築学科 3年生
松尾さん
(長崎県/大村
高校出身)



#95

2024年発行

小野学長就任号

小野学長の就任を機に、学生が直接問いかけるQ&Aを紹介。大学の15年を振り返り、これまでの歩みとこれからを示した一冊となった。

薬学科 2年生
庵本さん
(熊本県/天草
高校出身)



#83

2018年発行

第50回井芹祭と

ソーラ
SoLA完成の号

50回を迎えた井芹祭の活気ある様子を写真で伝えるとともに、新棟SoLA(ソーラ)の完成を掲載。誌面構成も現在の形へ変化した。



100号うれしいね!
みんなありがとう!



#100

2026年発行

100号の歩みを

刻んだ号

これまでの誌面の歩みを振り返る特集を中心に、兄弟・親子で学ぶ在学生の姿、各分野で活躍する卒業生の今を取り上げた。大学の歴史と広がりをつながりを感じられる記念の一冊。

画像はイメージです



For the future 未来 につながる研究力を。



機械工学科

工学と医療の異分野融合で
医療現場に役立つ技術を。

工学部 機械工学科
なかむた ゆうすけ
中牟田 侑昌准教授

崇城大学の魅力は、機械工学と医療など異分野が融合して研究を行いやすい環境です。現在研究しているのは、電気ウナギの仕組みを応用した体にやさしい電池や、CT画像を使った骨構造解析です。医療機器や診断支援ツールなど医療現場で活用可能な技術の開発を目指しています。

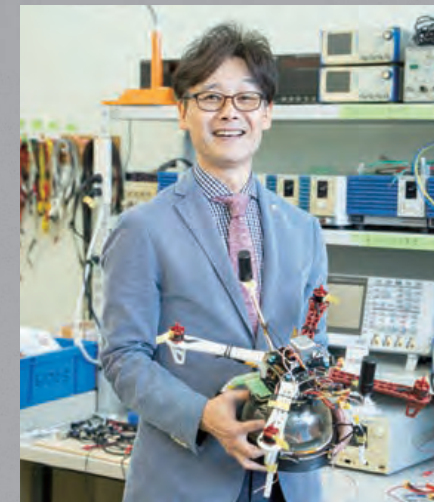


宇宙航空システム工学科

自然界からのヒントを
次世代の航空技術に応用。

工学部 宇宙航空システム工学科 宇宙航空システム専攻
かわべ ひろやす
河邊 博康教授

飛行力学や制御工学をもとに、鳥や昆虫が持つ飛行能力の仕組みを解明し、航空機の性能向上に生かす研究をしています。生物の行動や意図を数式化し、再現できた時の感動は格別です。先入観にとられない斬新な発想を大切に、環境負荷の低い、新しい飛行技術の可能性を探っています。

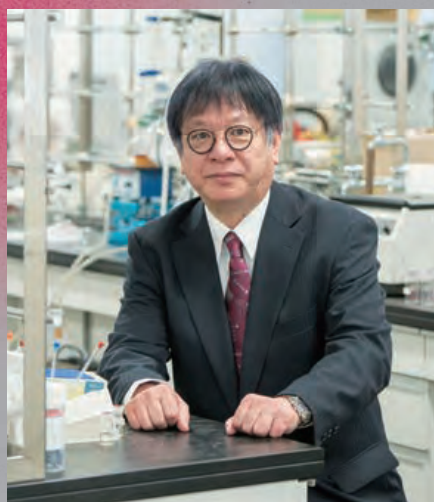


情報学科

電気機器に命を吹き込み、
未来社会の基盤をつくる。

情報学部 情報学科
にしま きみひろ
西嶋 仁浩教授

“電気的心臓”ともいえる「エネルギーエレクトロニクス技術」で、AI・電気自動車・ロボットなどに命を吹き込む研究をしています。当学部の特徴は、多分野の基盤技術を扱う最先端の研究施設を備えていること。産学連携の共同研究で、持続可能な未来社会の“基盤”をつくっています。



ナノサイエンス学科

ナノ粒子を利用した新材料で
次世代エネルギーを支える。

工学部 ナノサイエンス学科
よねくら ひろあき
米村 弘明教授

太陽光などの再生可能エネルギーを有効活用するための光機能ナノ材料(※1)の開発に取り組んでいます。これは化学・物理・材料科学の知識を融合し、次世代エネルギー技術の基盤を築く研究です。崇城大学は、こうした研究に必要な最先端の施設や設備が充実しているのも魅力です。
※1 光により機能性を発するナノ材料のこと



美術学科

彫刻×デジタル技術で、
新しい立体表現を。

芸術学部 美術学科 3Dアートコース
きよしま ひろし
清島 浩徳教授

人体の彫刻などに、3DCGや3Dプリントのデジタル技術を融合することで、立体表現の可能性を広げる研究をしています。メタバース空間を活用すれば、新たな芸術形態が生まれる可能性も。また、立体造形やデジタル表現技術は、医療や介護など、さまざまな分野への応用も期待されています。



生物生命学科

産学連携の研究で
健康に役立つ食品開発を。

生物生命学部 生物生命学科
にし のりこ
西園 祥子教授

「農」「食」「健康」をキーワードに、他学部や熊本県内の企業、台湾・韓国の大学などと連携。野菜や果物を中心とする農産品を活用し、機能性食品の開発を進めています。研究成果が、今後の食糧需給や人々の健康増進を助ける食品開発につながることを常に意識しています。



建築学科

人・地球・環境にやさしい
コンクリートを目指して。

工学部 建築学科
たけだ こうじ
武田 浩二教授

コンクリートは、使い方次第で人・環境・地球にやさしく、社会にも役立つ材料です。崇城大学は地域貢献や社会連携の取り組みを進めやすい環境。そんな中、試行錯誤と創意工夫を重ねながら、海中環境の再生やリサイクル資源の活用につながるコンクリートの研究開発を行っています。



デザイン学科

情報伝達ツールとして
マンガの可能性を追求。

芸術学部 デザイン学科 マンガ表現コース
きのした ひろし
木下 裕士准教授

マンガは国境を超えて情報を伝えられるメディア。デザインと組み合わせてマンガ表現の可能性を追求したり、さまざまな素材を使用した新たなマンガ形態の実験をしたりしています。3コースから成るデザイン学科は、学生や教員が刺激し合い、新しいものを生み出せる環境です。



薬学科

効果的で副作用の少ない
新薬の開発が目標。

薬学部 薬学科
にし ひろし
西 弘二教授

体内にある「一酸化窒素(NO)」という気体分子を利用し、がんや腎臓病に効果的で、副作用の少ない新薬開発に取り組んでいます。崇城大学では学生が主体で実験を進めるため、“自分で考えて研究する力”が身につきます。医療・工学・化学の分野を横断した研究ができるのも魅力です。

SOJO KAZOKU

姉 積極的に行動し、成長する妹の姿に感心。



撮影場所：池田キャンパス 中庭
いこいの広場

姉 薬学部 薬学科 2025年3月卒業
(熊本県/文徳高校出身)

かい しおり
甲斐 詩織さん

中学の頃から志していた薬剤師。父から母校の話聞き、オープンキャンパスに数回参加。ここなら楽しく学べそうだと感じました。特に印象に残っているのは、実験や仲間と教え合いながら学んだ4年次のOSCE(※①)対策講義です。SILC(※②)を積極的に利用して成長する妹の姿にも感心しています。

父 工学部 工業化学科
(現：ナノサイエンス学科) 1993年3月卒業

かい ひろのり
甲斐 裕規さん

化学を深く学びたいと崇城大学へ。大学の実験経験は、今も仕事に役立っています。子どもたちが理系に興味を持ち、私の母校を選んでくれたことはうれしく、親としても安心感がありました。2人とも専門知識とコミュニケーション能力を身につけ、自分の意見をしっかり伝えられる社会人になってほしいです。

父 子どもたちと母校が同じという嬉しさと安心感。

妹 夢に向かい努力し続ける姉の姿に背中を押されて。

妹 工学部 宇宙航空システム工学科
宇宙航空システム専攻 3年生
(熊本県/東稜高校出身)

かい ちひろ
甲斐 千裕さん

父から地元で宇宙航空システムについて学べると聞き、崇城大学を選びました。興味があることには積極的に挑戦するようになり、アクティブな大学生活を送っています。薬学部に通う努力家の姉からは、継続が成功につながることを教えてもらいました。私も向上心を忘れず、目標に向かって努力し続けたいです。

※①実務実習(病院・薬局)に必要な技能及び態度を客観的に評価するための共用試験※②英語学習施設SILC(SOJO International Learning Center)。

機械の知識も経験も、今の仕事の土台に。

やりたいことを主体的に学べる環境があった。



撮影場所：池田キャンパス 中庭 いこいの広場

夫 工学部 機械工学科 2024年3月卒業
(熊本県/熊本工業高校出身)

かわしま ゆうと
川島 勇翔さん

崇城大学を選んだのは、機械について専門的に学びながら、工業高校の教員免許も取得したかったから。実際に入学すると、個性的で面白い先生が多く、学ぶ環境もとても充実していました。勉強や部活動、アルバイト、ボランティアなど、いろんなことに挑戦できたのも良い経験でしたね。現在は、車のエンジンなどを生産するライン設備の設計を担当。大学で学んだ材料特性やCADの知識などが、仕事のさまざまな場面で役立っています。

妻 大学院 芸術研究科 美術専攻(日本画) 修士課程 2026年3月修了
(熊本県/クラーク記念国際高校 熊本キャンパス出身)

かわしま めぐみ
川島 めぐみさん

在籍していた日本画コースは、とにかくアットホーム。教室は実家のような安心感がありました!制作スタイルも自由で、先生や仲間との距離が近いのも魅力。学部棟裏の竹林で掘った筍を、みんなでデッサンしたのも楽しい思い出です。展示準備や空間づくりを通して、一つの展示をみんなでつくる面白さも学べました。色彩感覚や構成力はもちろん、卒業制作展の広報活動で培った発信力は、今の広報の仕事にも生きています。



SOJO KAZOKU

主体的に学ぶ姿に
娘の成長を感じます。

自分の意思で
母も通った崇城大学に。

撮影場所:ものづくり創造センター
SUMIC

娘

工学部 機械工学科3年生
(熊本県/九州学院高校出身)

やすお ゆずか
安尾 柚夏さん

母が崇城大学出身ですが、進学先は自分のやりたいことや学びたい分野を考えただけでなく、少しずつ自ら学ぶ姿勢が身についたと感じています。将来は地元・熊本で技術職に就く予定です。周囲と積極的にコミュニケーションを取りながら、責任感を持って行動できる社会人になることを目指しています。

母

工学部 建築学科 1999年3月卒業

やすお
安尾 ちよみさん

建築士の資格を最短で取得するため、崇城大学に進学しました。実験棟の機械に圧倒され、当時まだ珍しかった製図のプレゼン授業に緊張しながら挑んだのを覚えています。自分同様、娘も「のびのびと学生生活を送れるだろう」と思っていました。今では主体的に学ぶ姿に娘の成長を感じます。大学では考え、創造し、行動する力と、思いやり、楽しむ心を育ててほしいですね。

研究を続けたくて
大学院進学を決意。

教員という夢を叶えてくれた、
充実の大学生活。

撮影場所:SILC café

夫

大学院 工学研究科 応用化学専攻
修士課程 2025年3月修了
(熊本県/宇土高校出身)

しのだ しょうたろう
篠田 翔大朗さん

教員免許(理科)取得と化学研究を目的に崇城大学へ。その後、大学院の修士課程に進みました。先生や仲間たちと、発表・研修で東南アジアを訪れたり、将来について語り合ったりした時間は大切な思い出です。その中で妻とも出会い、結婚することができました。大学時代の経験や失敗が、多くの生徒と関わり、その夢を支える中学校教員としての今につながっています。

妻

大学院 工学研究科 応用化学専攻
博士後期課程2年生
(鹿児島県/加治木高校出身)

しのだ みいな
篠田 実衣菜さん

現在は大学院で、インスリンの研究に取り組んでいます。学部生の頃は、図書館で友人と勉強したり、教え合ったりする時間がとても楽しかったです。学会発表などを経験する中で、人に伝える力や説明する力も身につきました。崇城大学は学生へのサポートが手厚く、特にチューター制度(※)には助けられましたね。大学院の情報も早い段階から知ることができて心強かったです!

※学生約5名に対し、1名の教員が4年間サポートする制度

姉

薬学部 薬学科5年生(鹿児島県/鹿屋中央高校出身)

よしだ きら
吉田 妃良さん

大学では、何事も主体的に取り組めるようになり、自分自身の成長を感じながら充実した日々を送っています。同じ薬学部で弟がいるため勉強や学校生活の相談をしやすく、私生活でも心強いですね。それぞれの目標に向かって頑張る家族の存在は私にとって大きな刺激になっています。卒業後は、薬剤師という枠にとらわれず、研究や企業の商品開発にも携わってみたいです。

弟

薬学部 薬学科3年生(鹿児島県/楠隼高校出身)

よしだ しょうえい
吉田 翔瑛さん

九州の中心という立地と姉の存在、そして「兄弟姉妹同時在籍減免制度」(※)が、崇城大学を選んだ理由です。特に、学部の先輩として姉から研究室や勉強方法について聞けるのは助かっています。将来は、出身地の南九州で、地元に求められる新しい薬剤師の業態を作りたいと考えています。そのために学中から人脈を広げ、いろいろと積極的に学んでいきたいですね。

※兄弟姉妹が同時に本学(大学・大学院)に在籍する期間において、1名を除く他の学生の授業料が半額になる制度

お互いに頑張る
家族の存在が大きな刺激に。

先輩である姉と、
助け合える大学生活。

撮影場所:薬学部講義棟1F CAFE SAPPHIRE(サファイア)

兄

薬学部 薬学科4年生(熊本県/九州学院高校出身)

むた けんじ
牟田 賢司さん

「国家試験の合格率高く、先進的な研究ができる」と父から聞き、進学を決めました。私は実家から通学していますが、弟は学生マンションで一人暮らし。学部が違うため学内で会う機会は少ないですが、試験期間は弟の部屋を借りて、時間を有効活用しています。卒業後は薬剤師として医療に貢献するのが夢。責任感を持って、信頼される社会人になりたいですね。

弟

工学部 宇宙航空システム工学科
宇宙航空システム専攻2年生(熊本県/第二高校出身)

むた ゆうじ
牟田 侑司さん

地球の大気圏外で活動する宇宙機や、航空機の設計を学べる学科を探した結果、薬学部にいる兄と偶然同じ大学に!僕は、一人暮らしをしているので、試験前は実家から通う兄にも部屋を貸すことができて、良かったと思っています。大学では、自分の考えを言語化する力が身についたと感じています。将来は宇宙開発に携わり、人類の文明の発展に貢献したいですね。

試験期間は弟の部屋で
時間を有効活用。

希望の学科で選んだら、
偶然兄と同じ大学に!

撮影場所:池田キャンパス 本館横

01

Graduate Interview

Airstream[®]PRO
Bio Clean Bench Laminar Air起業の道を開いた
大学での研究と開発。大学院 工学研究科 応用生命科学専攻
博士後期課程2022年3月修了
シアモ
株式会社Ciamo 代表取締役こが あおい
古賀 碧さん
(熊本県/人吉高校出身)

研究室では、焼酎粕を活用して光合成細菌という微生物を培養する研究に取り組みました。地元・熊本県人吉で造られる「球磨焼酎」の粕を有効活用したいと考えたことがきっかけです。試行錯誤の末、農業資材「くまレッド」を開発。微生物の力で作物の生育を促し、土壌改善や低コスト化に貢献する商品です。開発にあたっては、大学の先生方に分野を超えて相談にのっていただきました。「起業部(現:アントレプレナーシップLab)」で自分の考えを伝える力を身につけ、大学院在学中に起業。現在は、県内だけでなく全国の農家の方々に商品を利用いただいています。これからも地域の未利用資源に新たな価値を見だし、環境負荷の少ない農業の実現に貢献していきたいです。

活躍する
卒業生に
会ってきた。

Graduate Interview

02

Graduate Interview

野球部での経験が
キャリアの礎に。

いしずえ

工学部 電気工学科(現:情報学部 情報学科)
1992年3月卒業
株式会社クラフティア 執行役員 電気技術部長うつのみや まこと
宇都宮 誠さん
(宮城県/妻高校出身)

電気は社会を支える重要な基盤技術であると考え、大学では電気工学の理論と安全性の大切さを学びました。また、在学中に打ち込んでいた野球部では、4年生の時に念願の全国大会に出場。厳しい練習を通して、仲間と目標を共有し、達成する喜びと大切さ学びました。卒業後は、「(株)九電工(現:(株)クラフティア)」に入社。野球部で培った粘り強さとチームワークで、現場経験を積み、現在は電気技術部の部長を務めています。目下取り組んでいるのは、技術力を会社の価値としてさらに高め、次世代につなげていくための組織づくりです。崇城大学からも毎年新しい仲間が加わっています。今後も、自由な発想と高い目的意識を持つ学生の活躍に期待しています。



活躍する
卒業生に
会ってきた。

Graduate Interview



(右:工学部ナノサイエンス学科
黒岩敬太教授)

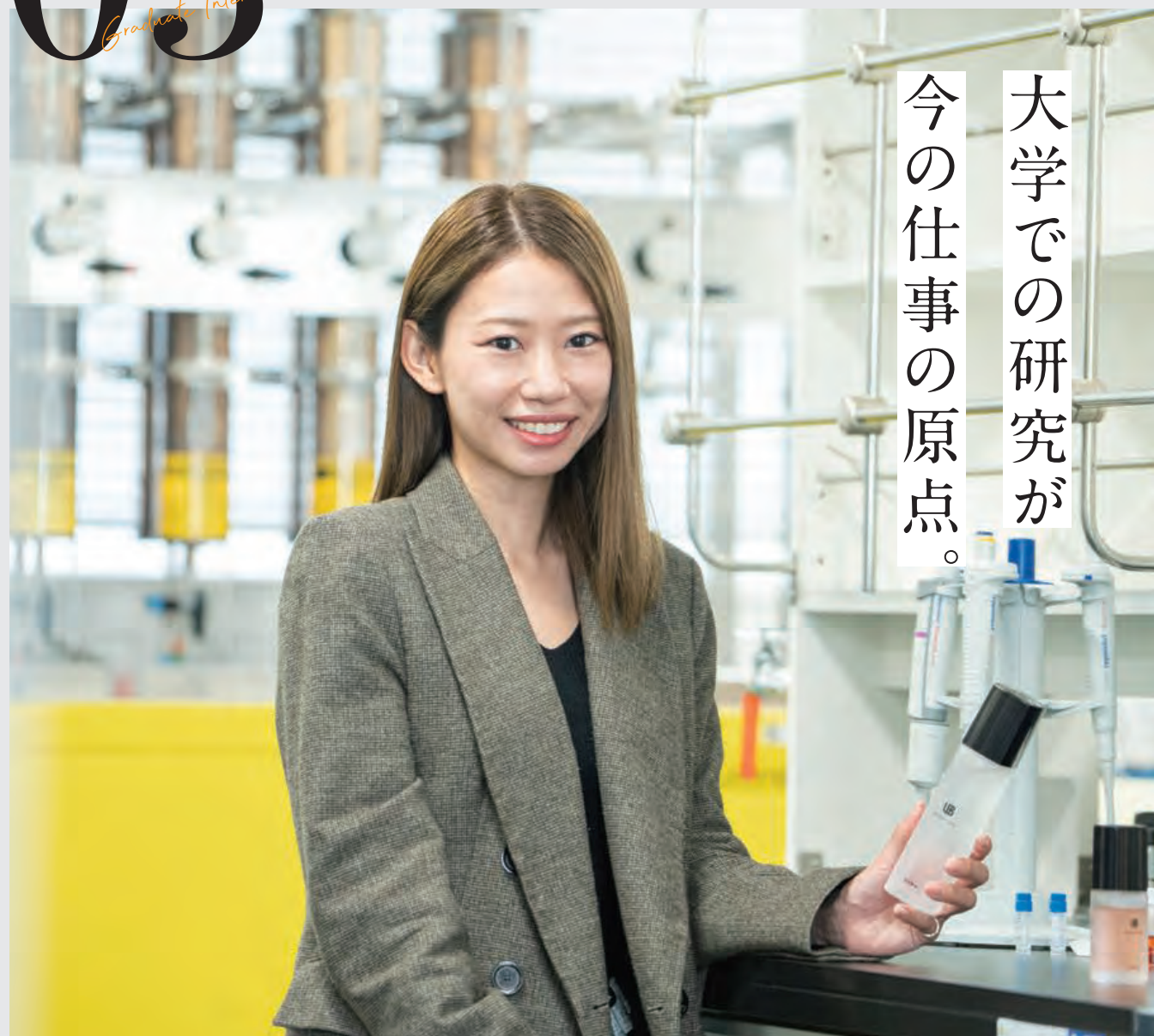
工学部 ナノサイエンス学科
2018年3月卒業
UUBU合同会社 代表

ふじむら あおい
藤村 葵さん
(熊本県/東陵高校出身)

在学中は、ナノサイエンス学科で高分子化学を専攻。人の体温でゲル化する材料の研究や、ハブの毒液を医療に応用する研究に取り組み、実験を通して知識をものづくりに生かす面白さを実感しました。進路を考える中で化粧品業界という選択肢を知り、卒業後はさまざまなメーカーの化粧品を製造・販売する会社へ。営業として商品開発にも携わり、3年後に独立。現在は自社スキンケアブランドを経営しています。化粧品ビジネスには科学と感性の両面が欠かせません。今は崇城大学の先生方と、心地良さを数値化・分析する「感性工学」に基づく共同研究も進行中。大学で培った科学的視点を土台に、人の心に響く新しい商品づくりへの挑戦を続けています。

03

Graduate Interview



大学での研究が
今の仕事の原点。



挑戦できる環境が
起業への原動力に。

04

Graduate Interview

工学部 建築学科
2013年3月卒業
株式会社BEAR HOUSE 代表取締役

やました りょうま
山下 良真さん
(熊本県/高等学校卒業程度認定試験)

建築全般を幅広く学びたいと考え、建築学科に進学しました。建築はデザインだけでなく、構造や環境、コスト、街との関係性など多くの要素が関わる分野です。1年生の時から複数の研究室に出入りし、さまざまな活動をする中で、多角的な視点から建築を捉える姿勢を学びました。また、学園祭では「建築展」も企画。挑戦を後押しする環境で得た経験が、起業への思いにつながりました。現在は熊本市内で自身が代表取締役・一級建築士を務める建設会社を経営。社名の「BEAR HOUSE」には、熊本の“熊”と“人”が集まる場所”という意味を含めました。今後は崇城大学とも連携しながら、住宅に限らず、熊本から新たな建築の可能性を発信していきたいと考えています。





SOJO HISTORY



変わり続ける、創り続ける。

SOJOが刻んだ65年のイノベーション。

1961

- 学校法人君が淵学園創設認可
校地を熊本市池田町2332番地に定める



ここが、
SOJOの原点！



2000

- 大学名称変更 熊本工業大学から崇城大学
- 芸術学部設置認可
- 応用生命科学科(現 生物生命学科)増設



2002

- モンマルト完成
デザイン学科の学生が「女子が行きたくなる」をテーマに、ロゴなどをデザインした



2010

- 英語学習施設 SILC
(Sojo International Learning Center)を開設



- 第1回RENSセミナーを開催
- SOJOサイエンスコンテストを開催



2011

- DDS(Drug Delivery System)
研究所を開設

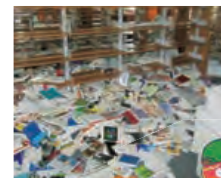


- 第1回つまようじタワー
耐震コンテスト高校生大会を開催



2016

- 開学50周年 ●全学科就職率100%達成
- 熊本地震



- ものづくり創造センター(SUMIC)を開設



2020

- IoT・AIセンターを開設



2020~

2021

- SOJO GALLERY リニューアルオープン



- 新薬学部棟 完成



2022

- 現在の5学部9学科体制に

2025

- 空港キャンパス 学生寮新設



2026

- 化粧品学修プログラムを新設
- 次世代女子育成プログラムを新設



1961~

1967~

2000~

2010~

2016~

1967

- 熊本工業大学設置認可
- 電子工学科(現 情報学科)
- 機械工学科・工業化学科(現 ナノサイエンス学科) 増設

1969

- 土木工学科・建築学科増設

1976

- 構造工学科(現 宇宙航空システム工学科)
- 応用微生物工学科(現 生物生命学科) 増設

1982

- 熊本工業大学大学院設置



2005

- 薬学部設置認可

2007

- 宇宙航空システム工学科 航空整備士養成コース
(現 航空整備学専攻)を開設



2008

- 宇宙航空システム工学科 パイロット養成コース
(現 航空操縦学専攻)を開設



2013

- 未来人育成特待生制度(ミライク)を創設



2014

- 起業部
(現 SOJOアントレプレナーシップLab)
が始動
- 第1回SOJOコラボ技術交流会開催
- 第1回崇城大学
ビジネスプランコンテストを開催



2018

- SoLA完成(名称は学生からの公募)



- 英語学習施設 SILC
(Sojo International Learning Center)
リニューアル



- 第50回井芹祭(学園祭)を開催



こんな時代が
あったんだね〜





熊本県PRキャラクター
「くまモン」
©2010kumamoto
pref.kumamon
#K38745

これから
よろしく!



最新情報はSNSでチェック!



崇城大学
SOJO UNIVERSITY

薬学部	生物生命学部	工学部				情報学部	芸術学部	
薬学科	生物生命学科	機械工学科	ナノサイエンス学科	建築学科	宇宙航空システム工学科	情報学科	美術学科	デザイン学科

〒860-0082 熊本市西区池田4-22-1 / tel.096-326-3111(代表) fax.096-326-3000

広報誌「がくふう」第100号 発行 2026年7月/崇城大学広報誌編集委員会・学生広報委員・広報課

※ 岳風の定期発送希望の方は、氏名・住所・学校名・Eメールアドレスをご記入の上、広報課 (koho@ofc.sojo-u.ac.jp) までご連絡ください。ご意見・ご感想もお待ちしております。

GAKUFU

崇城大学 広報誌「岳風」2026
vol.100 | 2026 SUMMER

